

喘息の吸入薬: 毎日の薬と、発作のときの薬

喘息の吸入薬には、毎日使って気道の炎症をしずめる「長期管理薬」と、苦しいときに使う「発作治療薬」の2種類があります。役割がまったく違うので、使い分けが大切です。

毎日の薬（長期管理薬）

- ・喘息は、症状がないときも気道にアレルギーの炎症が続いています。そのままにすると発作をくり返します
- ・炎症をしずめる薬の中心が「吸入ステロイド薬」です。粉や霧にして吸い込むので、飲み薬に比べて全身への副作用はほとんどありません
- ・症状がなくなっても、自分の判断でやめないでください。毎日決まった時間に吸う習慣をつけましょう（歯みがきの前など）
- ・吸ったあとは、口の中に残った薬を洗い流すために、必ずうがいをしてください

発作のときの薬（発作治療薬）

- ・狭くなった気道をすぐに広げる薬（短時間作用性の気管支拡張薬）です。薬にはなりますが、炎症はしずめません
- ・発作は夜間や早朝に起きやすいので、発作止めは手の届くところに置いておきましょう
- ・1日に何回も使うと心臓に負担がかかります。使う回数が増えてきたら、毎日の薬が足りていないサインです。担当医にお伝えください

上手に吸うために

吸入薬は正しく吸えて初めて効きます。うまく吸えているか、医師・看護師・薬剤師に定期的に確かめてもらってください。タイミングを合わせにくい方には、吸入補助具（スパーサー）があります。お使いの薬の名前は「お薬手帳」で確認できます。

こんなときは相談してください

- ・発作止めを使っても効きが悪い、苦しくて眠れない・横になれない、発作止めが手元にない、といったときは受診してください
- ・強い息苦しさ、ぼんやりして意識がはっきりしない、といったときは、救急車を呼んでください
- ・かぜ、急な気温の低下、たばこの煙などで発作が出やすくなります。悪化のきっかけも受診時にお伝えください

この紙は、担当医の説明を補うものです。診断や治療の指示ではありません。気になることは担当医にご相談ください。

出典: 日本アレルギー学会 アレルギーポータル「成人のぜん息」（2026年4月更新）<https://allergyportal.jp/knowledge/adult-asthma/>

作成: マナヴィア（MANNAVIA、現役内科医）／最終確認: 2026/09/15／製薬会社の資金は受けていません／mannavia.com/leaflets/asthma-inhalers